

禍でオンライン開催が続いていましたが昨年度より、対面でのセッションを再開し、今年度は対面を中心としたハイブリッド開催を予定しています。

今年度のシンポジウムでは、招待講演として間瀬健二先生（名古屋大学大学院）をお招きし「人間中心の共生インタラクション社会デザインを目指して」の題目でご講演頂きます。
加えて、藤本徹先生（東京大学大学院）にチュートリアル講演として、「ゲームの遊びを学びにつなげるデザイン」の題目でご講演頂きます。

特集テーマセッションは、「ロケーション・インフォマティクス」、「ユーザーニーズに即した視覚障害者支援」、「ソーシャル・インタラクション」と、いずれも大変魅力的な3セッションをオーガナイズして頂いています。さらに一般セッションでの発表についても多くの申込があり、合計115件の発表が予定されています。

大変活発な議論が期待できます。是非ご参加を検討ください。

最新情報につきましては下記Webサイトをご覧ください
<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2023/>

2024 年総合大会投稿のご案内
企画幹事
赤坂文弥（産総研）

電子情報通信学会では、例年、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しています。今回は、ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）を含む4ソサイエティグループが一堂に会して、以下の要領で総合大会を開催いたします。異なる分野の研究動向の効率的な調査、参加者との交流等にもご活用ください。皆様のご講演申込み、ご参加を心よりお待ち申し上げます。

会 期：2024年3月4日（月）～8日（金）
会 場：広島大学 東広島キャンパス（東広島市）

詳細は、大会Webサイト
https://www.ieice.org/jpn_r/activities/taikai/general/2024/list.html
をご確認ください。

福祉情報工学（WIT）研究会紹介
委員長 塩野目剛亮

福祉情報工学研究専門委員会（WIT:Well-being Information Technology）では、障害者・高齢者の情報・通信に関するさまざまな科学技術について、多くの研究者・開発者の方々が集まって発表や討論をしています。
また、情報保障にも取り組んでおり、障害がある方々・支援者の方々も積極的に研究会に参加しておられます。

WITでは2021年度より『論文作成・発表アクセシビリティガイドライン』の改訂作業を進めてまいりましたが、つい先日、ver. 4.0を公開することができました。本ガイドラインは2005年に情報保障WG（英文名称Academic Meeting Accessibility Initiative: AMAI）によりver. 1.0が公開されて以降、WITが中心となってメンテナンスを重ねて参りました。
今回は社会・技術の変化に対応するため、LS（読み書き困難）、ASD（自閉スペクトラム症）、HS（感覚過敏）についての項目を追加し、オンライン開催の場合の留意点の追記、手話通訳・要約筆記依頼先情報の更新など、大幅な改訂となっております。

今回の改訂に合わせてガイドライン公開のウェブサイトを更新し、学会誌に小特集を組んでいただき、より広く周知・ご活用いただけることになりました。改訂作業・編集作業に携わってくださった皆様に、この場をお借りしまして御礼を申し上げます。

こちらのガイドラインはHCGの研究会だけでなく、信学会全体、ならびに他の学術研究会でも活用されることを期待しております。
お気づきの点がございましたら、WIT幹事団までお知らせいただければ幸いです。

最後に、ガイドラインよりVer. 4.0改訂の序文を引用させていただきます。
>障害者差別解消法では、会社やお店、学会や研究会といった事業者に対して
>障害のある人に「合理的配慮」を提供するように求めています。
>合理的配慮の提供は環境側にあるバリアを無くすことを意味しています。
>アクセシビリティガイドラインは、この合理的配慮に関わるものです。
>そして、環境側にあるバリアを技術の面から無くすことはWITの使命です。
WITでは今後も研究会活動を通して、皆様とともにアクセシビリティの向上、およびWell-beingの向上に努めてまいります。

WITのウェブサイト、<https://www.ieice.org/~wit/>
論文作成・発表アクセシビリティガイドライン、
<https://www.ieice.org/hcg/wit/guidelines/>

コミック工学研究会紹介

委員長 相澤清晴（東京大学）
副委員長 山西良典（関西大学）

本研究会は、2019年に設立後、2023年11月17,18日からの東大での研究会で10回目の節目を迎える。本稿では、本研究会の特色である漫画・アニメ業界等からのゲストによる招待講演の数々を振り返りたい。

研究会設立を記念して明治大学中野キャンパスで開催した第1回では、パネラーとして漫画家の赤松健先生と小沢高広先生をお迎えし、相澤清晴委員長と情報学研究に対して漫画家が期待する未来について議論した。「AIは漫画を読めるようになるのか？」といった課題は、現時点では未だ解決こそしていないものの、生成系AIの昨今の急速な進化はその未来への足がかりが見えつつあるとも言える。

はこだて未来大学で実施した第2回では、漫画家の山田胡瓜先生と創作に向けた人工知能技術に取り組む松原仁先生との対談が実施された。漫画家の視点と工学的な視点のそれぞれの立場から、AIと人間の創造プロセスの違いや「漫画家はどこまで機械に任せることを許容できるか？」といった熱い議論が繰り広げられた。

COVID-19への対応が緩和された後に始めての現地開催となった第7回では、舛本和也氏（株式会社トリガー）、秋山剛氏（株式会社ブレイド）、中山英樹氏（株式会社ワクワーク）をパネラーとして、NIIから研究用に公開された「リトルウィッチアカデミア制作資料データセット」についての公開までの経緯をご紹介頂いた。「アニメ×テクノロジー」の可能性のために整備された資料には、シナリオや絵コンテ、作画などが多数収録されている。

愛知工業大学で開催された第8回には、制作ツールにフォーカスし、株式会社ワコムより轟木保弘氏、株式会社セルシスより秋元亮氏をお呼びして、デジタル制作におけるデジタルペン・タブレット・作画ソフトの開発現場からの技術やご意見をお伺いした。デジタル制作についてハードとソフトの両面から最新の取り組みやプロジェクトについてご紹介頂いた。株式会社セルシスには、第9

回においても、これまでの創作支援ツールや漫画閲覧ツールの開発の歴史、製品に搭載される新機能について紹介をしていただいた。さらに、非公開ではあったが、数十人の漫画家と生成AIの利用についての利用の知見を共有する会合を共催した。

以上のように、本研究会では産業界や漫画家自身との接点を積極的に用意している。このような取り組みの中で、いくつかの産学芸の連携研究も生まれてきている。今後の研究会も、超分野な議論の場としての活動をしていきたい。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2023 IEICE, All Rights Reserved.
□■□

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社)電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659